

その1：係の数や構成人数を制限する

学級の人数から「係の数は6つくらいがいいだろう」と係の数を決めて考えがちです。しかし、係の数を先に決めてしまうと、子どもたちの自由な発想を妨げてしまう恐れがあります。子どもの数だけ係があってもよい、と考えてみてはいかがでしょうか。

また「〇〇係は4人までね」と、係の構成人数を制限することもよくやっけてしまいます。それは、活動の効率性を考えた上での配慮だと思うのですが、子どもたちの問題解決力育成を考えた場合、あまりいい方法とはいえません。

ひょっとしたら、一つの係に多くの子どもが集中する場合が出てくるかも知れません。それでもいいのです。しばらく活動させてみて、子どもたちが活動しにくいと感じた時（問題場面の発生）、どうしたらよいかを話し合わせるようにしましょう。ヒントとしては、仕事の内容によって係を2つ以上に分けるとか、新しい係に発展させるとかの工夫をするような助言をしてあげればよいでしょう。

例) 新聞係・・・スポーツ新聞係と遊び新聞係に分ける。

遊び係・・・イベント係に発展させる。

逆に、たった一人でやってみたいという係があってもいいのです。そのような係ができた場合、私がいっしょに活動したこともあります。

その2：(公に) 構成メンバーを指定する

「この子には、〇〇係がぴったりだろう」、そう考えて、ある子を特定の係に所属させることがあります。子どもの実態等がありますので、一概にだめだとは言えませんが、少なくとも公に指名するのは避けましょう。

同様に、「この子には〇〇さんといっしょの方がおちついて活動できる」など、個に対する支援から係を指定することもあります。この場合には、指定する子どもから事前に了解を得ておく等の配慮を忘れないようにしておきたいものです。

ここで一言！

先に係と当番の違いを説明することを言いました。しかし、一回説明したくらいでは、理解できない子どもたちもたくさんいます。子どもたちのこれまでの経験から、初めからユニークな係ができるとも限りませんので、当番的なものから少しずつ移行していくという方法も可能です。

また、『4月になったらすぐに係活動をつくらなければならない』という決まりがあると信じられているようですが、あわてる必要はないと考えます。係という形を整えるよりほかに解決すべき問題がある場合は、そちらを優先させるべきです。

低学年の間、先生のお手伝い的存在であった係ですが、中学年からは、はっきり「学級生活をよりよくするもの」という係の意義を活動を通して教えてもらえるといいですね。

2 学級通信を考える～その18：学級目標・個人目標を動かす

1 学期始めにはだいたいどのクラスでも学級目標を決め、個人目標も決められる場合が多いようです。先生方の学級の目標、前面の黒板の上に貼りっぱなしになって、まさしく「飾り物」になってしまっていないですか。私の場合、恥ずかしながらそうなっていたことがあったのです。

そこで学級通信を利用して、「学級目標を動かす」ということをやってみました。

まず4月、学級目標が決まったら学級通信で紹介します。その後、子どもたちの日常の姿の中に学級目標にぴたっとくるものを見つけたら、それを学級通信に書くようにしたのです。

～息づいているよ、みんなの学級目標

6年4組には、「スマイル」という学級目標があります。その意味は

ス：すてきな笑顔

マ：まんまるい心

イ：いっしょうけんめいがんばる態度

ル：ルールを守って過ごしやすい学級

です。

先日、掃除の時間、いっしょうけんめいに掃除に取り組んでいる人を見つけました。〇〇さんです。〇〇さんは、みんなが気づかないテレビ棚の奥まで手を伸ばして、ぞうきんできれいに拭いてくれていました。(後略)

H14 発行 学級通信「スマイル」より

なお、個人名を出す場合には、本人から了承を得ておくことを忘れないでください。

これは個人の目標についても同じ事が言えると思います。そのままであったら、絵に描いた餅になってしまう個人目標も、学級通信を使えばおいしい味のある餅になるんじゃないかと思うのです。

3 中国学級活動ネットワークin米子 報告12～調査官の話その8 (最終回)

今回は、学級会(話し合い活動)と折り合いをつける力についてお話されたことを紹介します。

学級活動の内容で、これまでも人間関係のことはやっていたし、社会参画のこともやっていたわけですが、これからはそのことが強く出る形になるだろうということです。人間関係にきちんと力を発揮できるような学級活動とは? キャリア教育

としての学級活動とは？ 異年齢集団活動も同じで、新たな課題が今日白押しですが、それらに対応してきちんと研究を進めていく必要があるということをお話しされました。そして、本当の特活の研究は、ハートとセンスをどう持つかという教師の在り方を研究することだとも言われました。それについて、輪番制を例にして話がありました。輪番でやらせるのが特活だと言って、ただ輪番に回して、「あなた順番だから司会をやりなさい」といきなり言われても、誰だって「やらないきゃよかった」って思うということです。マニュアルをいっぱいやっているだけでは、何を育てたいのかといった時に答えられないということです。そういうところには愛を感じないと言われました。子どもの生活って、決まったとおりにいかないということですね。

多数決についても同じで、そのやり方を教えるのは簡単だけど、それをしないで意見をまとめようとするのが折り合いをつける力だと言われました。そういう力がないから、暴力になってしまうということです。グループの問題や対人関係の問題があって、それを解決する方法として集団決定の話合い活動があるということです。個性を伸ばすと言って、自由に意見を言わせるようにするけど、意見が言えるようになるというのが一番大事なのではなく、折り合いをつける方法や意欲や態度をどう育てることが大事だと言われました。なぜ1年生から6年生まで繰り返しかの集団決定をする学級会をするのかという意義を問われた時に、一人ひとりのよさや可能性を伸ばして何でも言える雰囲気をつくる、言える子にするという一方で、でもみんなが違いや多様性を言うほど、一つに意見がまとめられなくなる。それを折り合って、いかにして一つに意見をまとめるか。共に生きていくためには、時には自分が正しいと思っても、みんなに従うということも必要なこと。それを力に頼らないでどう解決していくか、ということをお教える必要があるということです。安易に多数決をしてはいけないと言われている理由はそこにあったわけです。その意味が分からないで、「多数決はやってはいけない」というのはやめなくちゃいけませんね。折り合うというのは本当に難しいことで、折り合うためには黙っていた方がいいこともあります。折り合うことの基本は、考えていることはきちんと言うべきだということ。例えばドッジボール大会をみんながやりたいという話合いで、99%がなびいている時に、一人だけ「やりたくない」と言うのは勇気があることだけど、言った方がいい。その理由を言う。そうしないと他の子にはわかりませんからね。言えば、みんなが必至に考える。そこが折り合いを教える時間だということです。公の話合いだからそれができるということです。「今日の学級会は活発でした」とかいうのは、価値観が全く違うということでした。中には、みんなが納得するまでは集団決定はしないという先生もおられますが、やってみることが大事で、そのための話合いをしているという自覚を持つことが大事だということです。45分で終わらせないといけないというのはそのためだそうです。ぎりぎりまでがんばって、多数決が必要だったらやってあげればいい。反対した子も決まったことには協力してがんばるといっても教えなくてはいけないんですね。子どもは45分間話し合った意味は分かっている、実際のドッジボール大会では休み時間とはまったく違う光景が見られるということです。真の折り合いというのはそういうことであって、決着をつ

けるとか、白黒をつけるといったそういうことではないと言われました。最近の話し合いはディベート的で、話し合いが勝ち負けになっている場合があるそうです。論点を整理して何か解決方法を生み出すということに力を注いで、多数決で決める。ただしやりたくないのに今回はやってくれるというのが分かってドッジボールをやるのと、そうじゃないのはまったく違うと言われました。それを教える時間として学級会が機能しているか？と問われました。

12回にわたって、1月に米子で行われたネットワークでの様子を伝えてきました。この特集は、今回で終了です。

4 山口学級活動ネットワーク 夏の学習会のお知らせ

山口学級活動ネットワークでは、この夏、学級づくりの学習会を開きます。

期日 8月5日(日)

場所 山口県セミナーパーク 201研修室

日程

8:30～ 受付

9:00～9:30 明日からの学級づくりを考える その1

「たかが学級づくり、されど学級づくり」

山口学級活動ネットワーク代表 梶田崇晴

9:00～12:00 明日からの学級づくりを考える その2

「クラス会議でクラスが育ち、教師が変わる

ー勇気づけ合う学級づくりプログラムー」

新潟県新潟市立曾野木小 教諭 赤坂真二

13:00～16:00 明日からの学級づくりを考える その3

「タイトル：まるごとやまかんミニ講座」

宮城県仙台市立向山小学校 教諭 八巻寛治

会費 1500円

学級づくりの分野で、全国的に活躍されている二人が山口にやってきました。ぜひおいでください。

5 メルマガ編集部からのお知らせ

◆次号の予告◆◇◆

第37号は7月中旬ごろ発行予定です。

次号は、「係活動」について第8弾をお送りする予定です。

原稿の投稿がありましたら、そちらを優先することがあります。

◆山口学級活動ネットワーク メールマガジンの登録について◆◇◆

現在の購読者は160名です。もっともっとメルマガ仲間が増えるといいなと思っています。お知り合いの方にこのメルマガを紹介してください。

登録については、山口学級活動ネットワークのホームページをご参照ください。

url: <http://www.yamakoshu.org/gakkatu-net/>

◆実践投稿のお願い◆◇◆

読者のみなさん、みなさんが取り組まれている情報を送ってください。特活の実践を広げ、共有していきましょう。

7月は1学期の終わりの月。そこで、1学期のまとめと、夏休み前の学級経営について情報交換したいと思っています。先生方が取り組んでおられるミニ実践を紹介してください。

本メールマガジンでは、今後、以下のようなことについての情報を交流し合いたいと考えています。どんな小さな事でもけっこうです。情報をお待ちしています。

<実践投稿のヒント>

- 7月頃 夏休み前の学級経営・1学期のまとめ
- 8月頃 子どもとのつながりを考える
- 9月頃 2学期スタートの学級経営・運動会と学級をつなぐ取組み
- 10月頃 意欲的に行事に取り組む手だて
- 11月頃 学級目標の見直し・音楽会と学級づくり
- 12月頃 お楽しみ会の在り方・年賀状と学級づくり
- 1月頃 新年の誓い・新たな気持ちを学級づくりに生かす
- 2月頃 文集づくり・6年生を送る会のシナリオ
- 3月頃 お別れ式の持ち方・先生の通知票

以下のアドレスまでよろしくお願ひします。

sugi-net@c-able.ne.jp

=====

山口学級活動ネットワーク メールマガジン

☆ご感想・ご意見はsugi-net@c-able.ne.jpまで

☆編集・発行 山口学級活動ネットワーク メールマガジン編集部

梶田崇晴（山口市立平川小）

津村元文（防府市立西浦小）

能勢雅子（山陽小野田市立高千帆小）

吉田哲朗（山口大学附属山口小）

=====